

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500389		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターもみじ台(1F ふくじゅそう)		
所在地	北海道札幌市厚別区もみじ台北6丁目1番8号		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町村受理日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_007_kani=true&JigvosoCd=0190500389-00&PrefCd=01&VersionCd=007

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階ふくじゅそうは、午前中は体操・昇降運動(昇降台使用)・レクリエーションを毎日介護計画に組み入れ、体力、筋力の低下予防に取り組んでいます。
午後からは、ひとりひとりの必要で休息が必要な方は休んでいただき、ゲームやカラオケなどされたい方は楽しんでいただいております。
5月から9月までのお天気の良い日は外気に触れて太陽のエネルギーを一杯に浴びていただき風邪予防し、散歩等を通して近隣の方とも繋がりをもっていただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR新札幌駅、地下鉄東西線新札幌よりバスで10分程のもみじ台団地に開設されており、近くには大型スーパーや小学校、交番、銀行などがあり閑静な住宅街で生活環境に恵まれている。
日々の生活では、一人ひとりの生活歴や力を活かしながらゲームやカラオケ等のレクリエーションを採り入れたり、天気の良い日には、散歩や外気浴で戸外に出かけたり、ボランティアの協力を得ながら大正琴の演奏鑑賞やクリスマス会、節分など季節毎の行事等で楽しみごと、気分転換等の支援をしている。
ターミナルケアを実践して早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、家族や職員、医療連携医の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらい 3 職員の1/3くらい 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらい 3 家族等の1/3くらい 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、朝礼・夕礼時やミーティング時に話し合い、実践に繋げている。	事業所独自の理念を作り、その達成に向けた具体的な目標を掲げてミーティングや朝夕の申し送り等で話し合い、職員間で共有してその実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い時には散歩や外での茶話会を行い、近隣住民とご挨拶をして親睦を深めている。また、月1回の見学会を通し、当ホームを知って頂くようにしている。更に地域の隣接している事業所と交流を深め情報の共有を図っている。	地域の人々に向けて見学会の実施や認知症の人を抱える家族等の困りごとへの相談・助言等を行うなど事業所の持つ専門性を活かしながら地域の人々との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回、お盆や年末年始の見学会や、隔月に行なわれる運営推進会議委員の中に地域の方が参加されているので、その方たちを通して事業所の情報等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目安に開催し、区の方、地域の方、ご家族、入居者様、職員が参加し、事業所の取り組みや現状等を具体的に話し合い、その意見をサービスに活かしている。	運営推進会議を年6回を目安に開催し、事業所の取り組み状況や日常生活の様子等を具体的に話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区担当者及び包括支援センター職員と連携を図り、助言や指導を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市、区担当者及び包括支援センター職員とは、相談や助言、指導を得ながら情報交換し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議・職員研修等で知識・情報の共有をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会の設置や接遇研修などの内部研修会を開催して、指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを活用し、職員研修の機会に全スタッフが学び、どんな小さなことでも見過ごされることがないように注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社で行なっている職員研修で、権利擁護に関する制度について学び、それらを活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定の際には、必ずご家族に不安や疑問点をお尋ねし、理解・納得していただけるまでご説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話受診時にご意見・ご要望をお聞きしたり、年1回の当社独自のアンケート(顧客満足度アンケート)を実施して、意見や苦情等を言い表せる機会を作り、運営に反映させている。	法人独自の顧客満足度アンケートを実施して意見や苦情等を言い表せる機会を作り、そこでの意見や苦情等を運営に反映できるように努めている。また、苦情等の第三者機関への申し出先の掲示や苦情等の受付箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日常業務等を通じて職員の意見や要望・提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	朝夕のミーティングやホーム会議等で職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握仕切れていない可能性はあるが、本年6月から手当新設・福利厚生拡充策の運用が開始され、幾分かの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握仕切れていない可能性はあるが、年間を通しての職員研修の計画を立て、実践するよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の同業者の方とお互いに運営推進会議に参加し、情報の共有を図り、サービスの質を向上させていく取組をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回のアセスメントで十分な情報を得、随時、本人の要望等に耳を傾けながら、本人が安心できるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回のアセスメントで細やかな情報の収集を行い、家族等の要望や意向を汲み取りながら関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が「その時」必要としている事に素早く気づき、見極められるよう常に情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、本人が協力できる分野の家事等をして頂くことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の生活状況を伝え、出来る限り介入して頂けるようお願いしたりして、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中から情報収集をし、本人の希望や意向を尊重して馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	センター方式を活用して、本人や家族等の希望や意向を尊重し、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士での共同作業を取り入れたり、孤立しがちな難聴の方にはスタッフが介入し、利用者同士の関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族から、その後の状況を伺い、必要な時には相談に乗るなど支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望・意向に沿えるよう、日常会話の中や生活歴からの把握に努め、本人本位に検討している。	センター方式を活用して、本人や家族の希望や意向の把握に努め、ホーム会議等で職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から情報収集したり、家族等からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのしたい事・したくない事、出来ること・出来ないことの見極めをするよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを通して職員からの意見やアイデアを出し合い、それに家族等からの意向や要望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向や要望、医師・看護師からの指導や助言、カンファレンスや、モニタリングを通じて職員からの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや観察した様子を申し送り時に話し合い、介護記録に記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	センター方式を活用しながら情報収集を行い、一人ひとりのニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医療連携体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、往診や訪問看護の利用や通院への支援等で適切な医療を受けられるようにしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気づいた事や情報を訪問看護師に伝え、個々の利用者が適切な看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、まめに足を運び、病院関係者との出来る限りの情報交換を行い、病院関係者との関係づくりを行っている。退院後も定期的に情報交換をし、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期に家族・医療連携医と十分な話し合いをし、連携を取りながら方針を共有するよう取り組んでいる。	ターミナルケアを実践して早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、家族や職員、医療連携医の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議等でのシュミレーションを含めた研修を通して基本的な応急手当等を行っているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署の協力を得ながら年2回の避難訓練を実施し、地域住民の協力が得られるよう参加を呼びかけている。また、スプリンクラーや通報装置等の設備を完備しており、非常時用の食料の備蓄もしている。	非常時の食料の備蓄、スプリンクラー等の設備を完備している。また、地元消防団や消防署の協力を得ながら年2回の火災避難訓練を実施し、地域住民の協力が得られるよう参加を呼び掛けている。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修で接遇マナーを学び、実践するように心掛けている。また、人生の大先輩ですと一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を職員間で共有している。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止、接遇マナー等の内部研修会の実施で、一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が自己主張や自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人一人ひとりのペースを大切に、その日の本人希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを確認しながら、訪問理容を受けたり、おしゃれや着替えの準備を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、食事の後片付けや食器拭きなど声掛けをしながら職員と一緒にいき、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、食事の後片付けや食器拭きなど職員と一緒にいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事接種量を把握し、記録している。栄養バランスを考えた献立や1日を通しての体調・状態を把握して、発熱時には水分量を多くしたり、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き後は必ず口腔内を確認し、磨き残しがないかを確認する。状況に応じて往診歯科等にかかることもする。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックで一人ひとりの排泄パターンを把握し、オムツは必要最低限とし、トイレで排泄できるように支援している。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫し、適度な軽運動への働きかけを行っている。凱善が見られない時には医師に相談し、整腸剤等で排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に柔軟な入浴支援をしている。入浴拒否の強い本人にも声掛け等を工夫し支援している。	拒否の強い本人にも個々に沿った柔軟な入浴支援をしている。また、一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠確保のため、日中は極力体を動かしていただくようレクリエーションを工夫している。日中でも休息が必要な方には長時間の臥床とならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬のを理解し、毎回確認している。また、臨時薬や内服薬に変更があった場合には症状の変化に気付けるように周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等を通し、本人の興味のある物・事を知るようにし、本人の意向に沿って支援するよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように行事委員会が季節に合わせた外出機会や行事を計画している。日光浴を兼ねた戸外での茶話会や近所の公園等の散策や散歩など戸外に出かけられるよう支援している。	行事委員会中心となって、季節に合わせた外出行事を計画していたり、近隣の薬局や銀行、郵便局や交番等への散歩や外気浴で戸外に出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自社の方針により本人にお金を所持させることはできないが、欲しい物や必要な物があれば、すぐに対応できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾りつけや行事等の写真やレクリエーションで作った作品展示をして私生活感や季節感を採り入れている。 また、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激が無いように配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。	共用空間では、利用者同士が談笑していたり、職員と話し合うなど和やかな雰囲気や季節毎の飾り付けや行事参加の写真等の掲示など生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の居場所を確保すると共に、自由に行動ができるよう極力制限をしないように見守りやさりげない付き添いなどで工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が愛用していた物や使い慣れた家具や寝具等を置き、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室には、本人が愛用していた身の回りの品や使い慣れた家具等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をし、独りでも安全に行動できるように配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500389		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターもみじ台(2F ふきのとう)		
所在地	北海道札幌市厚別区もみじ台北6丁目1番8号		
自己評価作成日	平成27年12月21日	評価結果市町村受理日	平成28年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_007_kani=true&JigyosyoCd=0190500389-00&PrefCd=01&VersionCd=007

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成28年1月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階ふきのとうは、午前中は体操・昇降運動(昇降台使用)・レクリエーションを毎日介護計画に組み入れ、体力、筋力の低下予防に取り組んでいます。
 時々1階に降りて合同でのレクリエーションを楽しんでいます。
 午後からは、ひとりひとりの必要で休息が必要な方は休んでいただき、ゲームやカラオケなどされたい方は皆さんで楽しんでいただいております。
 5月から9月までのお天気の良い日は外気に触れて太陽のエネルギーを一杯に浴びていただき風邪予防をし、散歩等を通して近隣の方とも繋がりをもっていただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、朝礼・夕礼時やミーティング時に話し合い、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天候の良い時には散歩や外での茶話会を行い、近隣住民とご挨拶をして親睦を深めている。また、月1回の見学会を通し、当ホームを知って頂くようにしている。更に地域の隣接している事業所と交流を深め情報の共有を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回の見学会や、隔月に行なわれる運営推進委員会の中に地域の方が参加されているので、その方たちを通して事業所の情報等を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年6回を目安に開催し、区の方、地域の方、ご家族、入居者様、職員が参加し、事業所の取り組みや現状等を具体的に話し合い、その意見をサービスに活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、区担当者及び包括支援センター職員と連携を図り、助言や指導を得ながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議・職員研修等で知識・情報の共有をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを活用し、職員研修の機会に全スタッフが学び、どんな小さなことでも見過ごされることがないように注意を払い、虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自社で行なっている職員研修で、権利擁護に関する制度について学び、それらを活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・改定の際には、必ずご家族に不安や疑問点をお尋ねし、理解・納得していただけるまでご説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話受診時にご意見やご要望をお聞きしたり、年1回の当社独自のアンケート(顧客満足度アンケート)を実施して意見や苦情等を言い表せる機会を作り、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議や日常業務等を通じて職員の意見や要望・提案を聞く機会を設け、運営に反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握仕切れていない可能性はあるが、本年6月から手当新設・福利厚生拡充策の運用が開始され、幾分かの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	組織が大きく、代表者は個々の職員の状況を把握仕切れていない可能性はあるが、年間を通しての職員研修の計画を立て、実践するよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域の同業者の方と互いに運営推進会議に参加し、情報の共有を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分なアセスメントを行い、本人の要望等に耳を傾けながら、本人が安心できるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	早い段階で細やかな情報の収集を行い、家族等の要望や意向を汲み取るよう関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等が「その時」必要としている事に素早く気づき、見極められるよう常に情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で、本人が協力できる分野の家事等をして頂くことで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日々の生活状況を伝え、出来る限り介入して頂けるようお願いしたりして、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の会話の中から情報収集をし、本人の希望や意向を尊重して馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士での共同作業を取り入れたり、孤立しがちな難聴の方にはスタッフが介入し、利用者同士の関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族からの連絡や相談の乗る等、関係性を大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望・意向に沿えるよう、日常会話の中や生活歴からの把握に努め、本人本位に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話の中から情報収集したり、家族等からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのしたい事・したくない事、出来ること・出来ないことの見極めをするよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリングを通して職員からの意見やアイデアを出し合い、それに家族等からの意向や要望を反映し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや観察した様子を申し送り時に話し合い、介護記録に記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	センター方式を活用しながら情報収集を行い、一人ひとりのニーズに対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。また、医療連携体制があり、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で気づいた事や情報を訪問看護師に伝え、個々の利用者が適切な看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、まめに足を運び、病院関係者との出来る限りの情報交換を行い、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早期に家族・医療連携医と十分な話し合いをし、連携を取りながら方針を共有するよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議等でのシュミレーションを含めた研修を通して基本的な応急手当等を行っているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防署の協力を得ながら年2回の避難訓練を実施し、地域住民の協力が得られるよう参加を呼びかけている。また、スプリンクラーや通報装置等の設備を完備しており、非常時用の食料の備蓄もしている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員研修で接遇マナーを学び、実践するように心掛けている。また、人生の大先輩ですと一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない対応を職員間で共有している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が自己主張や自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	本人一人ひとりのペースを大切に、その日の本人希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを確認しながら、おしゃれや着替えの準備を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、食事の後片付けや食器拭きなど声掛けをしながら職員と一緒にいき、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事接種量を把握し、記録している。栄養バランスを考えた献立や1日を通しての体調・状態を把握して一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き後は必ず口腔内を確認し、磨き残しがないかを確認する。状況に応じて往診歯科等にかかることもする。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックで一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事を工夫し、適度な軽運動への働きかけを行っている。凱善が見られない時には医師に相談し、整腸剤等で排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて週2回を目安に柔軟な入浴支援をしている。入浴拒否の強い本人にも声掛け等を工夫し支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠確保のため、日中は極力体を動かしていただくようレクリエーションを工夫している。日中でも休息が必要な方には長時間の臥床とならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬のを理解し、毎回確認している。また、臨時薬や内服薬に変更があった場合には症状の変化に気付けるように周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話等を通し、本人の興味のある物・事を知るようにし、本人の意向に沿って支援するよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように行事委員会が季節に合わせた外出機会や行事を計画している。日光浴を兼ねた戸外での茶話会や近所の公園等の散策や散歩など戸外に出かけられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自社の方針により本人にお金を所持させることはできないが、欲しい物や必要な物があれば、すぐに対応できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の飾りつけや行事等の写真やレクリエーションで作った作品展示をして私生活感や季節感を採り入れている。 また、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激が無いように配慮し、居心地良く過ごせるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の居場所を確保すると共に、自由に行動ができるよう極力制限をしないように見守りやさりげない付き添いなどで工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が愛用していた物や使い慣れた家具や寝具等を置き、居心地良く過ごせるように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備をし、独りでも安全に行動できるよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンターもみじ台

作成日: 平成 28 年 1 月 18 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	34	・急変や事故発生時の備え 応急手当や初期対応の訓練が定期的には行なえていない	・全スタッフが応急手当や初期対応の訓練を受ける	・職員研修年間計画を立てる時に応急手当や初期対応の予定を組み入れ、定期的に訓練する。	6ヶ月～1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。